

第73回卒業生 保護者の皆様へ

この度は、お子様方の卒業証書授与式につきまして、保護者の皆様にはご心痛、ご迷惑をおかけいたしました。誠に申し訳ありませんでした。大切なお子様方の義務教育最後の、そして、最高の儀式である卒業証書授与式に立ち会うことができなかつた保護者の皆様のお気持ちを考えますと、我々教職員も心が痛みます。また、この学年の生徒達は、震災後の卒園式や小学校の入学式でも大変だったという事を知っていただけに、なお一層、今回の卒業証書授与式は、盛大且つ厳かに実施し、見送ってやりたいという思いでございました。

私は、すでに、二人の子どもが義務教育を終えています。子ども達に「お父さん、卒業式に参加できる？」と聞かれた事を思い出します。父親として何もしてあげられなかつた自分にさえ、「卒業式は出てね。」とお願いされておりました。残念ながら、中学校はどの学校も同じ日に設定されている場合が多く、寂しい思いをさせてしまいました。だからこそ、なおさら、生徒達にとって、そして保護者の皆様にとって、特別な1日であつたであろう事を思いますと、大変複雑な気持ちです。

3年生の生徒達の花道を飾ろうと、在校生達は、例年と同様、それ以上にはりきって、担当教員とともに合唱団を結成し、昼休みに練習を重ねてまいりました。そして、部活動や委員会等でお世話になった下級生も、それぞれが、感謝の思いを伝えようと準備をしておりました。

日々、生徒達と喜びも苦しみも分かち合い、生徒達と一緒に頑張ってきた3学年のスタッフの姿を見ているのも大変辛く感じました。そして、その様子を間近で見っていた全教職員が当日、何ができるかを真剣に考え、心をこめて式の準備を行いました。

そして、令和最初の青学年の生徒達は、様々な思いをそれぞれが心に留め、明るく振る舞い、変わらぬ素晴らしい態度で卒業していきました。式辞でも述べましたが、私は、この学年の生徒達と2年間一緒に生活しました。毎日、楽しい事ばかりでした。良い思いをさせていただきました。いつもこの子達は、私の想像以上に素晴らしい行動で成長してくれました。私は、日々、成長していく彼らを本当に頼もしく感じておりました。授業を参観すると、いつも「こんにちは」と明るくあいさつしてくれました。朝、登校してくる生徒達は、「校長先生、今日は寒いですね。」「朝、いつもありがとうございます。」と声を掛けてくれました。私は、この子達に励まされ、背中を押されてきました。彼らから学び、彼らから教えてもらった事が沢山あります。素晴らしき子ども達です。

本来であれば、保護者の皆様にお一人お一人、御礼の言葉を述べたい気持ちでございました。この青学年の生徒達が素晴らしかったのは、保護者の皆様のお子様に出会えた愛情のたまものと思っております。このような私にも、多くの場面で、皆様からお声掛けいただき、親しくお話できた事も、とても嬉しく思っております。この4月より、仙台から離れられる御家庭もあると聞いております。どうぞ、皆様、お元気で、仙台で過ごした日々、そして長町中学校でお子様と過ごした日々を忘れずにいていただけると幸いです。

最後になりましたが、本当に素晴らしい生徒達でした。保護者の皆様には感謝の気持ちで一杯です。これからも、お子様方が幸せな人生を歩み、これまで同様、豊かな心を持って生きていけるように願っております。教職員一同、この長町中学校から、応援しております。紙面になりまして、大変失礼とは存じますが、保護者の皆様に感謝の気持ちと、お詫びの気持ちをお伝えし、そして、令和元年度の青学年の生徒達に幸多き事を切に願い、お別れとさせていただきます。これからは、赤学年、緑学年の素晴らしき生徒達が、青学年の成果を基盤に、新しい長町中学校を創ってくれると信じております。保護者の皆様、どうぞお元気で過ごして下さい。これまでいただきましたご恩を生涯忘れず、私も頑張ります。本当にありがとうございました。 長町中学校長 今野 隆